

5月りんご生産情報

令和6年5月7日発行
J A つがる弘前
岩木地区営農係



○りんご ふじの生態について

ふじの生態は、平年と比べ10日程度早く進んでいます。ふじでは園地や樹によって開花量にバラつきが見受けられます。

地域	展葉日		開花日		満開日	
	本年	昨年	本年	昨年	本年	昨年
小沢	4/13	4/6	4/27	4/27		5/1
五代	4/12	4/4	4/27	4/24		4/30
吉川	4/14	4/8	4/28	4/30		5/4
百沢	4/14	4/10	4/29	5/1		5/5
白沢	4/20	4/15		5/6		5/14
りんご研究所	4/11	4/3	4/27	4/25		5/1

○摘果作業について

栽培期間の短い早生種と摘果が遅れると肥大が劣る王林から始めましょう。なお、果実形質の判別ができる落花15日頃から仕上げ摘果へと切り替え、早めに着果量の調整を行いましょ。7月の花芽形成期には、仕上げ摘果を終えましょ。

【花芽形成期：王林7月上旬～、つがる7月上中旬～、ジョナ・ふじ7月中下旬～】

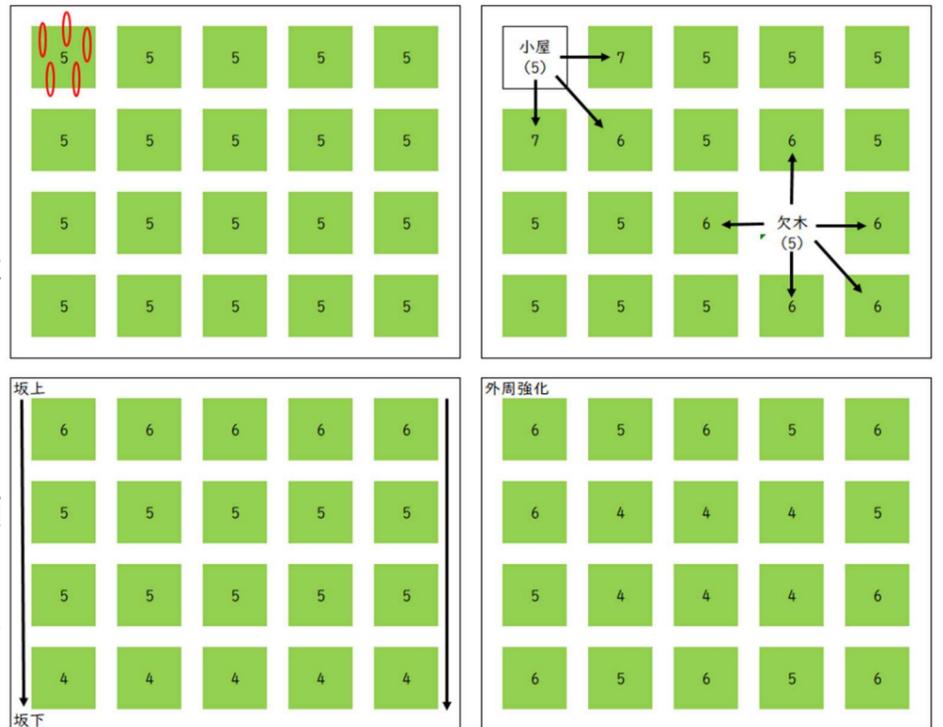
省力化や腐らん病果柄感染対策として積極的に摘果剤の散布を行いましょ。効果が発現するのは散布10日後頃です。

散布時期	使用薬剤・倍数	10a当り散布量	散布上の注意
満開後2週間頃 (ふじ横径10mm前後)	ミクロデナポン 1,200倍 (展着剤加用)	350以上	落果しやすい品種：つがる、ジョナゴールド、世界一、千雪、ぐんま名月など

○コンフューザーR設置について

5月中旬を目安に設置しましょ。10a当り100本(2袋)が必要です。1本の効果範囲は半径で2～2.5m程度となります。

右図は、丸葉10a20樹のイメージとなっています(1樹5本=100本)。小屋や欠木の周囲、傾斜の上部、隣接園が設置していない場所などは本数を強化し、フェロモンの濃度を保ちましょ。【殺虫剤は基準通り散布してください。】



○薬剤散布について

現在のところ、高温干ばつ傾向で経過しており、病害は少ない傾向と思われましょが、害虫は発生が早まる可能性があります。昨年、リンゴハダニの発生が見られた園地では予察を行い、適期防除に努めましょ。なお基本の「散布間隔は10日以内で降雨前散布」を徹底し防除を行いましょ。

回数 (散布量)	散布時期	薬剤名及び調合順序 (剤型)	倍数	1,000 当り薬量	防除上の注意
4 (420) 5/18頃	ふじの落花 10日後頃	ユニックス (顆粒水) ジマンダイセン(水) エルサン (水) クレフノン	2,000倍 600倍 1,000倍 100倍	500g×1袋 1.67kg×1袋 1kg×1袋 10kg×1袋	前回から10日以内で散布しましょ。
5 (420) 5/28頃	ふじの落花 20日後頃	デラン (FL) ダイアジノン(水) クレフノン カルマツチ	1,500倍 1,000倍 100倍 770倍	333ml×2本 500g×2袋 10kg×1袋 1.3kg×1袋	有袋栽培ではすす病対策として、基準散布後5日以上間隔が空いた場合は、殺菌剤で実洗いを実施しましょ。
6 (300) 6/7頃	ふじの落花 30日後頃	ラビライト (水) サイアノックス(水) クレフノン カルマツチ	500倍 1,000倍 100倍 770倍	1kg×2袋 500g×2袋 10kg×1袋 1.3kg×1袋	